

学生国際協力団体 CHISE

岸田夕奈（乾ゼミ 3 年・学生国際協力団体 CHISE 代表）

キーワード：国際協力，教育支援，識字教室

1. 団体概要

学生国際協力団体 CHISE（チーズ）は、ラオスの子ども達の教育環境の改善を目的として 2009 年に設立された。『「はいチーズ」の一言で世界に広がれピースの輪！』をコンセプトに掲げている。現在のメンバー（19 名）の過半数が県大生であるが、神戸市外国語大学や関西学院大学、神戸女学院大学といった他大学の学生とも一緒に活動をしている。

具体的な活動地は、ラオスの山岳地帯に位置するルアンパバーン県の郊外にある農村地域である。これまでに CHISE は小学校の校舎を 4 校、幼稚園を 1 校完成させた。2020 年以降は、コロナ禍の影響を受け、現地での活動を中断している。しかし、オンラインで交流活動を継続する中で、コロナ禍でも村のニーズに合わせた支援ができることを実感しているため、以下に報告していきたい。

2. 具体的な活動内容

現在、CHISE の主な支援先は、ルアンパバーン県にある“ロンロード村”である。昨年 2 月にロンロード村で小学校のラオス語の授業をオンライン視察した際、子ども達のラオス語能力が都市部の子ども達に比べて低いことが分かった。同村の子ども達はモン族であり、日常生活ではモン語を使っているが学校ではラオス語を勉強する必要がある。しかし、現地の子供達は、小学校高学年になってもラオス語の読み書きができないという課題があった。そこで学校の先生にインタビューをしたところ、ロンロード村には幼稚園がなく、小学校入学時までラオス語に触れる機会がないという事実が明らかになった。幼稚園がない理由は、教員 1 名を派遣するために必要な児童数（20 名）を満たしていないためである（村の 5 歳児は 12 名）。

そこで CHISE は、無償で働く現地のボランティア教員へ給与を支援することで、幼稚園児を対象と

したラオス語の識字教室を開いてもらうプロジェクトを計画した。実際に昨年 6 月より教室を開始し、現在も支援を継続している。また教室に通う 5 歳児には定期的にテストを実施し、ラオス語の定着度を確認している。この支援により、子ども達が小学校入学前からラオス語に触れられる環境づくりをすることで、スムーズにラオス語学習が進められることを期待する。

以上のような支援をはじめ、CHISE はコロナ禍でも積極的な支援活動を行ってきた。その活動を動画にまとめ、コンサルタント会社パデコが主催する「Education Development Short Video Contest」に応募したところ、見事金賞を受賞することができたことが今年度の大きな成果である。



写真 1 識字教室で勉強する幼稚園児の様子

3. 今後の展望

今後も村のニーズに合わせた支援ができるよう、現地との密な交流を大切にしたい。また 2020 年以降中止していた現地訪問も 2023 年 3 月から再開予定である。現地訪問をすることでしか得られない情報を収集することで、より一層、現地のニーズに合わせた質の高い支援ができるよう努めていきたい。

最後にはなりますが、先日行った「ステーションナリードライブ」にご協力いただいた皆様に、心より感謝申し上げます。